

## 北海道穂別町富内におけるバシクルモンの分布 The Distribution pattern of *Apocynum venetum* L. var. *basikurumon* in the Tomiuchi district, Hobetsu, Hokkaido

笠巻袈裟男

Kesao Kasamaki

穂別町穂別 48-1

48-1, Hobetsu, Hokkaido, 054-0211, Japan

川上源太郎

Gentaro Kawakami

穂別町立博物館

Hobetsu Museum

80-6, Hobetsu, Hokkaido, 054-0211, Japan

(1998 年 2 月 9 日受付)

### Abstract

The distribution of Bashikurumon (*Apocynum venetum* L. var. *basikurumon*: endangered species) are recognized in Tomiuchi district, Hobetsu, Hokkaido. Tomiuchi is comparatively inland area, and isolated from primary habitat of Bashikurumon.

All localities are sandy and gravelly ground, road side, above the shelter of road, along a river and embankment. Then the isolated distribution, or immigration, of Bashikurumon in Tomiuchi district may be caused by Human impact.

### はじめに

バシクルモン (*Apocynum venetum* L. var. *basikurumon*) はキョウチクトウ科の多年草で、北海道西南部の海岸と本州の青森県～新潟県の日本海側の海岸部に分布する(村田, 1981; 大井, 1983)。また遠山(1958)によれば、北海道では檜山・後志・石狩・網走の各支庁の海岸部に点在すると報告されている(佐藤, 1994 で引用)。

しかし 1993 年の 8 月、北海学院大学の佐藤 謙博士により、胆振支庁穂別町富内の鶴川河川敷において、バシクルモンの生育が確認された(佐藤, 1994)。穂別町富内は海岸(ただし太平洋)から直線距離で 35 km と、やや内陸に位置しており(図 1)、また周辺地域からバシクルモンの分布はこれまで報告されていない。すなわち従来報告されていた分布域からは孤立した、特異な地域であるといえる。

バシクルモンは危急種である(日本植物分類学会, 1994) こともあって、著者の一人笠巻は富内におけるバシクルモンの分布調査を 1993 年の初確認以後

毎年続けている。その結果、群落が確認された地点はいずれも道路や人工河川堤防に沿った場所で、ほとんどの地点で代償植生が広く認められる。

以上のことから、富内におけるバシクルモンの分布は人為的な影響を受けていると推定されるが、その経過については不明である。

本報告ではこれまでの笠巻による分布調査を踏まえ、バシクルモンの花期に合わせて 1997 年 8 月に行った調査結果について述べる。今後のバシクルモンの生態研究・保護に、少しでも役立つことを願う。

### 調査結果

富内に生育するバシクルモンの状況を写真 1 に示す。分布は大きく 6 つの地点に分けられ(図 2)、各地点における調査結果は表 1 にまとめてある。いずれの地点も鶴川流域に位置し、最も上流側の八幡覆道付近(地点 1) から富内市街富内橋(地点 6)までの、7～8 km の区間に限られる。調査項目としては、各地点での地盤の性状、分布範囲、個体のサイズ、また密生している場所では 1 平方メートル当た



写真1. 鶺鴒川河川敷に生育するバシクルモン。茎の高さは1mをこえる

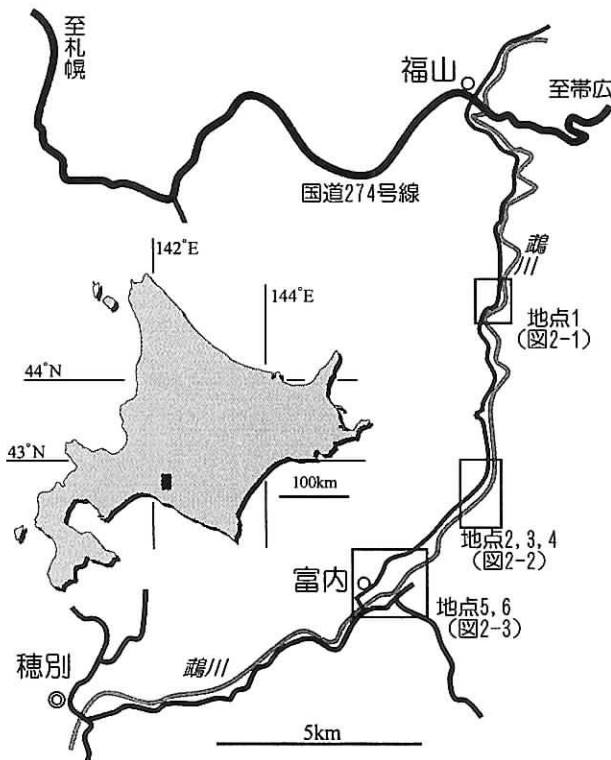


図1. 調査地域位置図

りの生育密度を計測した。

各生育地点は、鶺鴒川に沿う穂別町富内～福山を結ぶ道道の路傍(地点1, 2, 3)と八幡覆道上(地点1), 鶺鴒川河川敷内の小道周辺や護岸工事された河岸(地点1, 2, 4, 5), 人工堤防(地点5, 6)など、いずれも車両や人の出入りがある草地や人為裸地～造成地である(図2)。

**地点1:**

蛇紋岩崩落崖下、道道保全のために設けられた覆道上に、5m×4mの範囲で30個体ほどが生育する(地点1-a)。覆道の上面には落石時の緩衝材として砂が敷かれており、人為裸地となっている。ここでは超塩基性岩特生植物が認められ、堀江・野坂(1994)などにまとめられている。加えてこの地点にはバシクルモンをはじめ、ハマエンドウ、ナミキソウ、コウボウシバなどの海浜植物が認められるなど、特異な植生が観察される。バシクルモンは、高さ1m前後で花をつけた個体を中心とするが、分布範囲の周縁部では、高さ20～50cmで花をつけておらず、また枝別れや叢生もすすんでいない若い個体が多く生育している。一方花をつけた個体は普通叢生してお

り、中には10本ほどの茎に別れている個体もある。

この群落の近傍に小規模な流水があり、覆道下を通過して鵜川へ流れ込んでいるが、これに沿って花をつけた数個体が点在する(地点1-b)。さらに地点1-bから鵜川下流側へ、護岸工事された河岸に沿って、34m×9m(地点1-c)、26m×9m(地点1-d)の並列する2列の群落が認められる。地点1-c, dでは高さ10~20cmの花をつけない若い個体が密生し、1平方メートルあたり40~50個体が認められる。とくに若い個体が密生するのは、護岸工事に伴って砂礫が敷設された人為裸地である。

#### 地点2:

富内市街から東北東へ4km、道道から鵜川河川敷へ入る小道に沿って分布する。砂礫質地盤の草地である。道道に近いところ(地点2-a, b)では、叢生し花をつけた高さ1~1.5mの個体が、ススキ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、ヨシ、ツルヨシ、ヒメジョオン、エゾヨモギ、オオイタドリ、ムラサキツメクサ、クサフジなどと混生して散在するのみだが、より河川に近いところでは5つの群落が認められる。群落では花をつけた個体はあまり多くはなく、とくに地点2-c, e, f, gでは、高さ20~30cmの花をつけない若い個体が、1平方メートルあたり40~50個体の密度で密生する。

#### 地点3:

地点2から道道に沿って富内市街側へ500mほど寄った地点の、路肩の法面の草地に、花をつけた高さ1mほどの個体がわずかに散在する。吹き付けられた芝やムラサキツメクサ・シロツメクサなどと混生する。

#### 地点4:

鵜川左岸でバシクルモンの生育が確認できたのは、この地点だけである。地点3の対岸に位置する。河川敷地内の小道に沿って、砂礫質地盤の草地に3つの群落が認められる。いずれも叢生し花をつけた高さ1~1.5mの個体を中心とするが、密生する若い個体も観察される。地点4-aでは、群落からやや離れた地点で高さ2mを超える、きわめて大きな個体が1例ではあるが認められた。地点4では、混生植物は地点2とおおむね変わらない。

#### 地点5:

富内市街北東のトサノ沢と鵜川の合流点付近。道道からトサノ沢右岸—鵜川右岸にかけて築かれた堤防上の小道~後背地側の堤防斜面/後背の草地に分布する。5つの群落が認められる。地点5-a, eでは花

をつけた高さ1~1.5mの個体が散点する。一方、地点5-b, c, dでは花をつけない若い個体が密生する。生育密度は1平方メートル当たり30~40個体である。地点5における混生植物はオオイタドリ、ツルヨシ、クサフジ、ハマエンドウ、ヒメジョオン、オオマツヨイグサ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、オニシモツケ、エゾシモツケなどである。

#### 地点6:

富内市街の南、前述した河川堤防の下流側延長部の川側斜面の草地に生育する。4つの群落からなり、主に花をつけた高さ1~1.5mの個体が観察される。混生植物は地点5と変わらない。

## ま と め

93年の初確認以降現在まで、バシクルモンの生育地点に大きな変化はなく、道道の八幡覆道~富内橋付近までに限られることがあらためて確認された。ただし地点1, 2, 4, 5などで見られるように、花をつけず叢生や枝別れもすすんでいない若い個体が優占・密生して生育する場合が多く観察され、各地点で個体数が次第に増えているように見える。とくにこのような若い個体が密生するのは、護岸工事が施された場所や車の出入りがある河川敷内の小道の路傍といった、砂礫質地盤からなる人為裸地である。一方、叢生し花をつけた個体は密生せず、ススキ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、ヨシ、オオイタドリ、ヒメジョオンなどと混生する。

また特筆すべきこととして、佐藤(1994)にも述べられているが、富内では花をつけるまでに生長した個体は全体に葉が大きく、長さ6cm、幅が2cm程度になるものが普通である。また茎の高さも、本来の生育地における高さの40~80cm(村田, 1981, 大井, 1983)をはるかに超えて、高さ1~1.5mの個体が主体となるほか、1例ではあるが高さが2mに達するようなきわめて大きな個体が、地点4-aにおいて認められた。

今回の分布調査から言えば、道道八幡覆道上(地点1)においてハマエンドウ、ナミキソウ、コウボウシバなどの他の海浜植物と混生することから、この覆道上の緩衝材として使われている砂が海浜砂で、これにバシクルモンの種子が混ざっていた可能性が指摘される。ただしこの砂がどこから運ばれてきたかは未確認である。

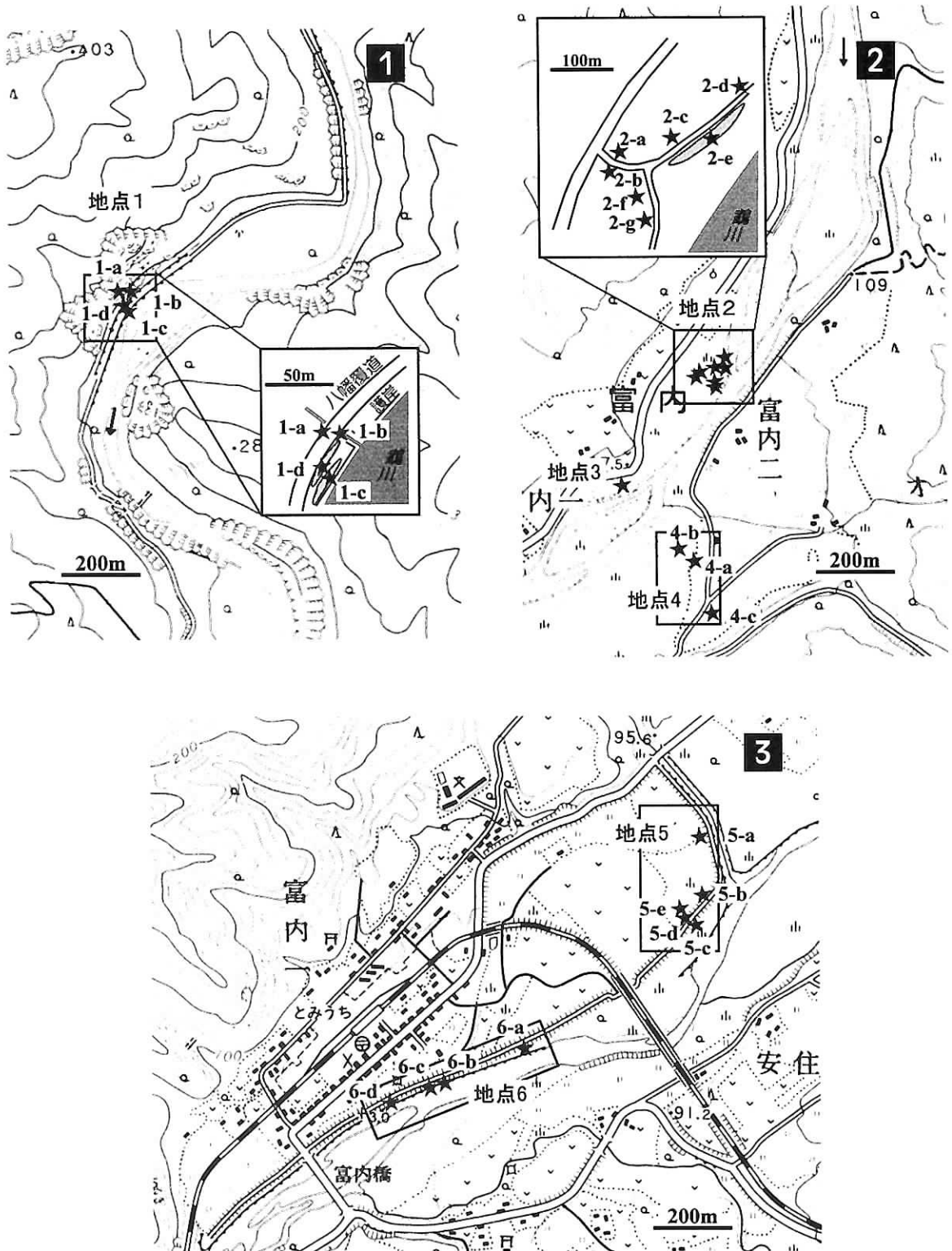


図2. パチンコモン分布地点位置図 (国土地理院発行 1/25,000 地形図「胆振福山」, 「仁世宇」, 「穂別」の一部を使用)



表1. 地点別調査結果

| 地点                          | 細区分 | 分布範囲     | 地形・地盤の特徴                                      | 群落の特徴   | 混生植物  |
|-----------------------------|-----|----------|---|---|---|
| 1. 八幡覆道上<br>～鶴川護岸           | 1-a | 5m×4m    | 蛇紋岩の崩落崖下、覆道上の緩衝材(砂)敷設地。<br>小沢が群落の脇を流れる。       | 30株ほどの、主に花をつけた個体からなる。叢生しているものも多い。高さ20～30cmの若い個体が、群落周縁部に多く見られる。最大高1.45m。<br>花をつけた高さ1mほどの個体が、散点して認められる。 | 超塩基性特生植物(堀江・野坂, 1994)、海浜植物(ハマエンドウ、ナミキンソウ、コウボウシバ)、オオイタドリ、オオマツヨイグサ、エゾヨモギ、など。            |
|                             | 1-b | —        | 林道の路傍。1-aの脇を流れる小沢の敷m下流にあたる。砂質地盤。              | 護岸に沿って長く分布。高さ10～20cmの若い個体が多い。最大高2m。   |   |
|                             | 1-c | 34m×9m   | 護岸工事が施工された鶴川右岸。一部、人為的に礫が敷設。                   | 1-cの陸側に並列して、長く分布。若い個体が多く、優占的に密生する。  |   |
|                             | 1-d | 26m×9m   | 1-cに並列して、より陸側に位置する。砂質地盤。                      | 1-cの陸側に並列して、長く分布。若い個体が多く、優占的に密生する。  |   |
|                             | 2-a | —        | 鶴川右岸河川敷の小道。砂質地盤。                              | 河川敷の小道に沿って、その両側に長く分布。   | ススキ、オオアワダチソウ、アキノキリンソウ、ヨシ、ツルヨシ、エゾヨモギ、オオイタドリなどが多く、他にクサフジ、ヒメジョオン、シロバナシナガワハギ、ムラサキツメクサなど。  |
|                             | 2-b | —        | —   | 2-a, bでは、叢生し花をつけ1～1.5mほどの高さの個体が、散在する。   | ムラサキツメクサ、シロツメクサ。  |
|                             | 2-c | 23m×13m  | —   | その他の地点では若い個体が多く、花をつけているものは少ない。とくに2-c, e, f, gでは、20～30cmの高さの若い個体が優占的に密生する。                             | 地点2と同様。   |
| 2. 富内市街北<br>東、鶴川河川敷         | 2-d | 10m×3m   | 道路の路傍の、芝が吹き付けられた法面。砂質地盤。                      | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 2-e | 170m×36m | 鶴川左岸の河川敷の小道～道路の路傍。砂質地盤。                       | 河川敷の小道に沿って、その両側に長く分布。叢生し花をつけた個体、密生する若い個体ともに認められる。群落からやや離れて、高さ2mになるものが1個体認められた。                        |   |
|                             | 2-f | 8m×7m    | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 2-g | 18m×12m  | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 4-a | 98m×3m   | 鶴川支流トサノ沢～鶴川右岸の人口堤防上の小道～後背地側の堤防斜面、斜面下の草地。砂質地盤。 | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   | オオイタドリ、ツルヨシ、クサフジ、ハマエンドウ、ヒメジョオン、オオマツヨイグサ、ムラサキツメクサ、シロツメクサ、オニシモツケ、エゾシモツケ、エゾミソハギ、クガイソウなど。 |
|                             | 4-b | 76m×3m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 4-c | 35m×12m  | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
| 5. トサノ沢一鶴<br>川合流付近、築<br>堤周辺 | 5-a | —        | 鶴川支流トサノ沢～鶴川右岸の人口堤防上の小道～後背地側の堤防斜面、斜面下の草地。砂質地盤。 | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 5-b | 45m×1m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 5-c | 35m×5m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 5-d | 15m×6m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 5-e | —        | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
| 6. 富内市街南、<br>築堤周辺           | 6-a | 55m×5m   | 鶴川右岸の人口堤防上の小道～堤防の川側斜面。砂質地盤。                   | 堤防斜面に沿って長く分布。花をつけた高さ1mほどの個体が認められる。やや散在した群落をつくる。   |   |
|                             | 6-b | 20m×2m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 6-c | 10m×9m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |
|                             | 6-d | 15m×2m   | —   | 花をつけた高さ1mほどの個体が、散在する。   |   |

謝 辞

穂別町立博物館の皆様には、本研究に対してさまざまにご支援をいただいた。道都大学学生の大橋聖市君と山形秀一君には、97年8月の調査を手伝っていただいた。

美幌町立博物館鬼丸和幸学芸員には、粗稿に目を通していただき、多くのご助言をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

文 献

- 堀江賢二・野坂志朗, 1994, 北海道・穂別町蛇紋岩地帯の植物相, 土別博物館報告, 12, 21-46.
- 村田 源, 1981, キョウチクトウ科, 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・巨理俊次・富成忠夫編「日本の野生植物 草本」, 平凡社, 東京, 259 p.
- 日本植物分類学会, 1994, 環境庁委託絶滅危惧植物調査対象種1次リスト, 108 p.
- 大井次三郎, 1983, 北川政夫改訂「新日本植物誌 顕花編」, 平凡社, 東京, 1716 p.
- 佐藤 謙, 1994, 北海道植物分布ノート(2), 植物研究雑誌, 69, 239-240.